



ボタンを動かす際の注意点、  
高所作業での安全帯の使い方などを実演



ハーネスやヘルメットなど  
種類が様々ある中で、  
劇場での安全のための  
ポイントを説明



誘導のロールプレイング、実際にやってみて  
ディスカッションすることで理解が深まる



シアター・アクセシビリティ・ネットワーク  
(TA-net)との共同企画。  
観劇サポートの一助として手話通訳、  
音声を文字化する  
アプリなどの紹介があった。

沖縄県アーツマネジメント講座 劇場実践編

## 舞台の裏表、 現場で動くための心構え

沖縄県で開催している文化芸術に携わる人のためのアーツマネジメント講座\*、秋には劇場を会場とした実践編が行われました。

### 講座11

#### 「制作現場の安全管理」

10月5日(木) 会場=てだこホール 大ホール

公演に関わるすべての人たちが同じルールを思い浮かべ、作業することが安全管理の第一歩。基準協のガイドライン\*\*をテキストに、公演制作の統括管理者、施設側の責任者、そして各部門の統括者のコミュニケーションの重要性が語られました。実作業の例とあわせた解説で、施設管理部門や舞台裏をあまり見たことがない参加者にもわかりやすく、舞台技術者にとっては業務について改めて考える機会となりました。

### 講座12

#### 「視覚障害、聴覚障害を持つお客様を劇場に迎えるために」

10月17日(火) 会場=国立劇場おきなわ 小劇場

聴覚、視覚それぞれに障害をもつ講師2名から、観劇の障壁となること、その解決策が提示されました。申し込み、劇場までの交通や受付、会場内の移動、障害を持つ方にとっての壁がいくつもありません。音楽が大好きなのに、視力を失って外出しづらくなった参加者から「特別な対応はなくても、受け入れてもらえることがわかると、安心できる」というコメントも。受講者それぞれの現場から、障害を持つ方を迎える取り組みが広がることが期待されます。

\*アーツマネジメント講座:2013年から芸団協が沖縄県よりマネジメント人材育成の事業を受託。県内での座学(本講座)と県内外での研修派遣の2本柱で展開している。www.geidankyo.or.jp/okinawa  
\*\*『劇場等演出空間の運用および安全に関するガイドラインver.3』(劇場等演出基準協会[基準協])の購入、PDF閲覧はウェブサイトより。www.kijunkyo.jp